

いつまでもお元気で  
～100歳おめでとうございます～



宮寄 光子さん(南有馬町)  
大正8年6月4日生まれ



石川 玉子さん(南有馬町)  
大正8年6月11日生まれ



## 春の褒章 受章おめでとうございます

春の褒章の受章者が発表され、本市から以下の方が受章されました。  
おめでとうございます。

### 【褒章】

- 藍綬褒章
- ・行政相談委員  
木村 優仁さん(有家町)

## 土砂災害防止功労者 表彰を受賞

噴火災害を後世に引き継ぐことや防災意識を高める機会として実施している「メモリアルデー」の永年の取り組みが評価され、以下の団体が土砂災害防止功労者表彰に輝きました。おめでとうございます。

- 受賞団体…大野木場小学校



## 出水期を前に危険箇所を巡視

5月23日、市では、梅雨や台風の出水期を前に、警察や消防など関係機関とともに、市内の危険箇所巡視を行いました。過去に冠水被害や土砂崩れなどが発生した場所や浸水被害が予測される場所など、市内6カ所を巡視し、担当部署からの説明を受けました。

今後、各機関と連携を取りながら、防災体制の確立を図っていきます。

## J A F と観光連携協定を締結



市と一般社団法人日本自動車連盟(JAF)長崎支部が有する資源を相互に活用し、観光振興を通じて地域社会の発展と諸事業の拡充を図るため、5月23日、両者間で観光協定を締結しました。協定は県内の自治体で本市が9番目となります。

この協定により、イベントの共同開催や観光情報の発信など連携した事業を展開していきます。協定式で、日本自動車連盟 長崎支部の藤岡良規 支部長は「さらなる観光客誘致の一助にしたい」と述べられました。

締結の主な内容は以下のとおりです。

- ◎観光振興に関すること
- ◎観光情報登録システムの利用に関すること
- ◎その他、双方協議して決定したこと

## 児童の安全を守る学童傘を寄贈



島原雲仙農業協同組合から今年度の市内小学校新入学児童数に相当する336本の交通安全学童傘の寄贈がありました。

5月29日、贈呈のため同組合の岩本猛常務ら4人が教育委員会を訪れ、永田教育長へ目録と学童傘が手渡されました。

同組合は、これまでも児童の安全を守るため、AEDの贈呈やカーブミラーなどの設置をされています。

今回寄贈された学童傘は、市内各小学校で使用されます。



## 普賢岳大火砕流から28年 ～いのりの灯～



6月3日、雲仙岳災害記念館で追悼行事「第13回 いのりの灯」が開催されました。43人が犠牲となった雲仙・普賢岳大火砕流から28年が経過し、犠牲者への追悼と噴火災害の記憶を子どもたちへ伝承するため、雲仙岳災害記念館が主催。

点灯式では、噴火当時、大野木場小学校の児童だった大山秀樹さんが子どもたちに自身の体験談を話し、参加児童を代表して増田実々花さん(大野木場小4年)が「自然災害に備えて避難経路などを確認しておこうと思う」とメッセージを述べました。

会場には、島原半島内の小中学生などが絵やメッセージをかけた手作りのキャンドル千本が並べられ、家族らと犠牲者の冥福を祈りました。



## 姉妹都市小豆島を駆け抜ける



5月26日、本市の姉妹都市である香川県小豆島町で開催された第42回小豆島オーリーブマラソン全国大会に交流事業の一環として、本市から5人(10kmの部2人、5kmの部3人)が出場しました。マラソンでの訪問は今回で30回目になります。

当日は気温30度を超える真夏のような暑さのなか、オーリーブの花が咲く海岸線の風景を楽しみながら本市の選手全員が完走しました。

5kmの部では松本市長がスターターを務め、優勝者へ南島原市長賞を授与しました。大会後には「二十四の瞳」映画村や、オーリーブ公園などを視察し、本市と小豆島町の歴史的な繋がりを深く実感するものとなりました。

## Focus in 南島原 まちの話題



## 有家史談会が機関紙 「獄南風土記」を寄贈

5月29日、島原半島の歴史や民族研究を行っている有家史談会(生駒輝彦 会長)が、機関紙「獄南風土記」を市へ寄贈されました。

四半世紀前に創刊されたこの機関紙には、島原半島の歴史や文化についての研究の成果が記されており、今回で26号の発刊となります。

生駒会長は「この獄南風土記を多くの方に手に取ってもらい、地元の歴史について知ってほしい」と話しました。



## 市文化協会が「書」を寄贈

5月29日、市文化協会(高柳 忠昭 会長)が市へ「書」を寄贈されました。作品は、今年3月に文化協会が開催した「大野勝彦講演会」の講演中に講師の大野さんが書かれた「負けない逃げない諦めない夢に向かって笑顔いばんで生きる」という書です。大野さんは若い頃に事故で両腕の切断を余儀なくされたため、両手義手で絵や詩などを書かれています。

文化協会は、不屈の精神で自分の人生を切り開かれた大野さんの作品を鑑賞することでたくさんの人に生きる希望を感じてほしいと、今回の寄贈となりました。

「書」は、深江公民館でご覧になれます。